

平成26年度施政方針と当初予算

昨年7月、これまで経験したことのない豪雨は、本町の山も川も道路も住宅までも壊し、大きな爪あとを残しました。予想を超える被害の大きさではありましたが、町民の皆さまに一丸となって応急作業にあたっていただき、そして、国・県をはじめ、近隣の自治体やNPO、ボランティアなど多くの方々からのご支援により対処することができました。各自主防災会や消防団をはじめ、関係された皆さまに敬意を表するとともに、深く感謝を申し上げます。

私たちの美しいふるさとと安定した生活を一刻も早く取り戻し、次代へとつないでいかなければなりません。被害箇所への復旧に向け、国・県をはじめ、多くの皆さまの力をお借りし、町民の皆さまの安全で安心な暮らしの確保に向け努力してまいります。

一方、昨年は、明るい話題も多かった年でもありました。高校野球、高校バスケットの本町出身者の活躍、そして、角界入りして3年目を迎えた白鷹山が、幕下まで番付を上げ十両も視野に入ってきました。こうした若い人たちの今後の活躍に大いに期待をしているところであります。

また、釜の越桜をはじめ古典桜6本が県の天然記念物に指定され、あらためて古典桜の里として全国に発信できることは、町のみならず町民の皆さまにとっても大きな喜びであり、あわせて、これまで保存活動に取り組まれてこられた方々をはじめ、関係者の皆さまに敬意と感謝を申し上げます。

私が町政を担わせていただき6年目、実質2期目の折り返しを迎えますが、「笑顔かがやき 心かよう 美しいまち」をめざした、第5次白鷹町総合計画も前期の検証を行い、後期基本計画の準備段階に入ります。あらためて、町民の皆さまと視線を同じくして、共創のまちづくりを進めてまいります。

そして、今年、白鷹町が誕生して60周年を迎えます。これまで、先人が培ってきた伝統文化と恵まれた自然環境を誇りに、町民の皆さまとともに記念すべき年をお祝いし、次のステージにつなげていく一歩として、様々な事業に取り組んでまいります。

白鷹町長 佐藤 誠七

予算編成の基本方針

平成26年度予算は、昨年7月の豪雨災害からの復旧・復興を最優先とし、『第5次白鷹町総合計画』の前期基本計画の最終年度、そして、後期基本計画の芽出しの年として、重点プロジェクトと位置づけ推進してきた事業を検証し、取捨選択を図りながらまちづくりの将来像の実現に向けて、効率的かつ効果的な施策の充実に努めていく観点から編成しました。

この結果、一般会計当初予算額は、76億1000万円となり、前年度に対し4億1400万円、5・8%の増加となったものです。災害復旧事業や学校統合に伴う投資的経費の増加が主な要因となっています。

【歳入予算】

町税は、町民税の増収見込み等により全体としては1779万円、1・6%の増。地方交付税のうち、普通交付税は、公債費に係る算入額の減少や、公立保育所に係る財政措置の減少の影響等を見込み、1億400万円、3・3%の減、前年度と同額を見込んでいる特別交付税を含む総額では、3・1%減。このほか、町債は、投資的経費の増加により、1億5180万円、15・6%の増となりました。

【歳出予算】

義務的経費は人件費が職員数の減少等により7399万円、6・6%の減、扶助費は臨時福祉給付金及び子育て世帯臨時特例給付金の皆増等により4125万円、4・1%の増、公債費は5・7%の減となり、義務的経費全体では8699万円、2・8%の減となりました。そのほか、普通建設事業費は(仮称)町民武道館等整備事業及びスクールバス導入事業の皆増等により4億4062万円、51・3%の増。災害復旧事業費は豪雨災害に係る復旧対応の皆増により1億1539万円となりました。物件費は統合中学校関係経費の増等により9698万円、12・2%の増、補助費等は1億2649万円、11・3%の減となりました。

【特別会計・事業会計】

全体で60億8305万円を計上し、前年度に対し1億9585万円、3・3%の増となりました。公共下水道事業において下水処理施設の長寿命化事業に取り組むことが大きな要因となっています。

以上、一般会計に特別会計等を合わせた当初予算総額は、136億9305万円、4・7%の増となりました。